

外国語活動・外国語の指導を 4技能の観点で見直す

第3回 音声インプットを与える

粕谷恭子（東京学芸大学）

0. 4技能をなだらかに育てるための言語経験

- 4技能のとらえ方 (第1回)
- 「意味」と「音」の一致 (第2回)
- 大量の音声インプット (第3回)**
- 口慣らし (後練) (第4回)
- 「音声」と「文字」の一致 (第5回)

外国語活動・外国語の指導を 4技能の観点で見直す

第3回 音声インプットを与える

粕谷恭子（東京学芸大学）

外国語活動・外国語の指導を 4技能の観点で見直す

第3回 音声インプットを与える

粕谷恭子（東京学芸大学）

外国語活動・外国語の指導を 4技能の観点で見直す

第3回 音声インプットを与える

粕谷恭子（東京学芸大学）

外国語活動・外国語の指導を 4技能の観点で見直す

第3回 音声インプットを与える

粕谷恭子（東京学芸大学）

外国語活動・外国語の指導を 4技能の観点で見直す

第3回 音声インプットを与える

粕谷恭子（東京学芸大学）

第3回 音声インプットを与える

1. 音声イメージを持たせたい

- ・ 外国語の音声なので、なじみがなくて当たり前
- ・ そのなじみのない音声をどっぷり味わってとらえる
時間帯の確保
= 児童は話さなくていい
- ・ “Repeat after me.” は2つのことをさせてしまっている

第3回 音声インプットを与える

2. 指導者に必要なこと

- * 聞かせる機会を逃さない「指導するぞ」という決意
 - ・活動だけ流れる「活動倒れ」にならないように
- * 「この表現を聞かせる！！」というぶれない気持ち
 - ・単にやり取りしているのでは活動倒れになりかねない
 - ・英語目標を明確に持って、目標となる表現を聞かせる
- * 英語インプットの全責任を負わない
 - ・お手本は音源や外部人材中心

第3回 音声インプットを与える

2. 指導者に必要なこと

* 英語らしい音の流れを崩さないで英語を話す

- ・途中で息継ぎしない
- ・言葉の虹を架けるつもりで最後まで

* 堂々と話す

- ・動きながら話さない
- ・教室の一番後ろの子に聞いてもらうつもりで話す
- ・肉声で話す

第3回 音声インプットを与える


3. 授業の場面で

* やり取りの中で = 「言語活動を通して」！

- ・ youツッコミと自己開示
- ・ 同じことも何回もついでに話す

* 実践例

- ・ ねらいとする英語表現 We have a park.



4. 次回予告

この回では、音声インプットを与えるステップについてお話ししました。

第4回では、口慣らしのステップについて扱います。